

あいあいあい I eye 愛

2021年

8 月号



ラインナップ豊富な登録米（写真は一部です）

組合員と生産者の 食べる約束 作る約束

理事 原子 良恵

私たちの主食であるお米。生産量、消費量ともに下がり続けている中で、私たちあいこープが理念として掲げる「持続可能な社会」をつくるためには、輸入食料に頼らず、自分たちの食べ物を自分たちで守る必要があります。産直運動という私たちの活動の意義はますます大きくなっていきます。

あいこープでは、産直産地の仲間と共に、農薬、化学肥料を削減した米作りに取り組んでいます。そんな米作りを支えるために、お米の年間利用登録「登録米」の制度があることをご存知でしょうか。産地や品種、量目を選んで年間登録すると、毎月・隔週など希望のサイクルで定期的にお米が届く仕組みです。これによって、私たち組合員は年間を通して安定的にお米を利用することができ、また生産者にとっても、安定的な利用が約束されることで、厳しい栽培基準の米作りに取り組むことができるのです。

今年一月にご逝去された大郷グリーンファーマーズの郷右近秀俊社長が生前、交流会でおっしゃっていた言葉が、私はとても心に残っています。

います。あいこープとの関係は、「取り引き」ではなく、「取り組み」だ。商品だけのお付き合いではなく、「生活まるごとのお付き合い」だと。

「登録米」の取り組みは、まさにこのことではないでしょうか。お米の年間利用登録をすることは、組合員にとっては生産者の作ったお米を一年間買い支えるお約束。そして、生産者にとっては、組合員のためにお米を作っていくお約束。まさに、お互いが信頼のもと支えあう、生協の理念そのものだと思うのです。

「田んぼに行こう」や「トライ田んぼ」、「バケツ稲選手権」など、農産産地との交流活動で出会ったお気に入り生産者を応援するもよし！お好みの品種で選ぶもよし！「おまかせ産直米」なら毎回どこのお米が届くかわくわく！

いろいろな楽しみ方ができ、お得に利用できる「登録米」は9月1回のまんま通信から申し込みが始まります。皆さんの毎日の食卓に、産地の風景と生産者の顔が見える、おいしいご飯を並べましょう。

CONTENTS

▶2021 年度総代会 Q&A	…2	▶あいこープ 2025 年ビジョンのスタート	…4-5	▶海のプラスチック汚染学習会報告	…7
▶GM ナタネ自生調査報告会	…3	▶まんま通信のある暮らし ひんやりデザート	…6	▶生産者にあいに行こう はさま自然村の巻	…8

総代会報告(理事会答弁の要旨)

【食肉加工場、建設費、工期、ご心配と激励のご意見や質問、感想について】

食肉加工場建設の目的は、日向養豚、あいちゃん牧場等による生産活動の受け皿として持続的に生協が責任もって食肉加工を行うということです。

現在(6月18日)は工場の詳細設計や機械設備の選定も完了し、建設工事の完成を待ちながら、マニュアルや作業フロアの整備、スタッフの実務研修などを進めていく段階になっています。

従来より社会福祉法人みんなの輪にセツトセンターでの作業の一部を委託してきましたが、食肉加工場でも利用者さんが取り組める作業についてみんなの輪との調整を進めています。

理事と地区委員で「あいコープ食肉プロモーション」チームを結成し、「あいコープ型畜産」の学習会、商品ラインナップについての意見交換、定期的な組合員ニュース発行を行いながら、組合員・職員・生産者で産直肉の価値を学び合いながら事業を進めてまい

ります。

【コロナ禍の組合員活動と今後について】

新型コロナウイルスの感染状況に対応したあいコープの対策レベルを5段階で設定し組合員の暮らしに貢献する為の事業継続を最優先課題として取り組んできました。昨年の総代会以降も、対面による組合員活動を自粛しつつ、オンライン活動の可能性を模索し、もっと上手に情報発信ができないか、組合員が楽しく分かりやすく参加いただける方法は何だろうかなど、組合員理事も必死の思いで努力を続けてきています。

オンラインをきっかけに参加したという方がいらつしやいます。その様々なご意見をいただき、現在、実は田んぼや畑での屋外での活動を、人数制限をしながら再開をしています。コロナが落ち着いた時に、対面による活動とオンラインの活動を組み合わせ、またはオンラインの次は対面での活動にも参加

していただいて、という活動ができるの良いなど考えています。

地区ニュースの発行について、頑張ってますね、というご意見や、今年の選挙に向けて発信にも取り組んでもらいたいというご意見もいただきました。生協は、特定の政党・候補者を応援をするということとはできませんが、選挙に行くという意味や一票の価値をしっかりと発信していきたいと考えております。

【組合員をしっかりと増やしていく活動、テレビCMについて】

コロナ禍により対面の活動が制限される中、テレビCMの取り組みを実施しました。CMについて、反対のご意見もありましたが、基本的には良かった、うれしかったというお声をいただきました。両方の意見があるのがあいコープですし、様々なお声をいただき職員たちも努力が報われたと感じております。コロナの影響により効果が正確には分かりにくい面もありますが、テレビCMの影響で問合せの数も増え、加入の効果は合格ラインだと考えています。仲間づくり活動の現場ではこれ

までの「あいコープ知らないなあ」という反応から、なんか聞いたことあるな、という反応に変わり、事前に名称を知っているというだけで抵抗なく加入につながるといことを実感しています。

今後も様々な方法で、あいコープの利用をしっかりと広めていく、生産者の商品の利用を広めていくことに取り組んでいきます。

【2025年ビジョンについて】

2025年ビジョンが良くまとまっていて、夢がある内容になっていくというご意見、地域や行政と連携して、活動の幅を広げてほしいというご意見、1人では難しくて組合員一人の力でやれば実現可能だというご意見、本当に多くのご意見をいただきました。

【コロナ後の事業について】

コロナで供給高は伸びただけ、これから下がっていくだろうから、それへの備えが必要で、ひとつは組合員一人一人の利用結果ということ、もう一つは新しい組合員を増やしていくことというご意見がありました。

利用結果と仲間づくりを行うために、さらに二つの提起をいただき、一つはあいコープの魅力をしっかりと伝えられる職員の育成、もう一つは、生産者が良い生産物を作り出せる環境整備に予算も使ってはどうかというご意見でした。

職員育成のためのコアサイクル活動が今年で3年目になります。生産者と職員がお互いの現場を知って、その感動を組合員に伝え、持続的な生産につなげていく活動です。

また、生産者の環境整備についても、例えば野菜の生産者たちと農法研究会というグループを作って、毎年産地ごとに研究テーマを作って、新たな農法に挑戦するという活動をあいコープがサポートしています。

生産者団体の共生会との連携では、野菜の栄養成分検査に予算をとって取組結果を可視化する事でモチベーションをアップするなどの取り組みも始めていますが、さらに効果的な活動を模索し今後も積極的に取り組んでいきます。

なぜここに遺伝子組み換えナタネが自生？

市民の地道な活動が謎を解いてゆく！

7/10 遺伝子組み換えナタネ自生調査報告会

あいコープみやぎも法人会員として名を連ねる「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」主催で毎年行われる「遺伝子組み換えナタネ自生調査報告会」。二年連続のコロナ禍にもめげず、地道に調査をする全国の仲間たちが一堂に会するこの報告会に、オンラインで参加しました。

今年全国で調査された885検体中、ラウンドアップ耐性が5、バスター耐性が35、両方に耐性があるのが1検体確認され、そのうちあいコープで見つけたのはバスター耐性5検体です。



QRコードから詳細が見られます



各地区の委員が調査することで
調査範囲が広がった
(画像はしおさい地区の調査の様子)

2005年から始まったこの調査は、市民が行政と情報を取り交わしながら17年も続いている活動として世界から高く評価されているそうです。市民レベルの地道な調査のおかげで多くのデータが集まり、研究側も様々な気づきがあるとのこと。今回、輸入小麦にナタネが混ざっていることがわかり、ナタネの陸揚げのない港に遺伝子組み換えナタネが自生する理由の一つがまた解明されました。

ゲノム編集作物が食卓に迫りつつある今日、思いを同じくする仲間たちと情報を共有し、今後もずっとこの調査を続けていく意義を確認した一日となりました。

理事 辻朗子

あいコープの産直肉 価値を学びなおそう

あいコープミートセンターの稼働に先駆けて、「NPO法人とうほく食育実践協会」主催の学習会が開催されています。

全3回のうちの2回が終了。第1回目は、食育実践協会の吉野さんに、第2回目は「こめ豚セット」の産地「あいあいファームわ・は・わ田尻」の職員である大内さんにお話を伺いました。参加者の感想をお届けします。

畜産学習会の第1回目としてあいコープの元理事でもある吉野さんから、あいコープの畜産への想いと、そこに至った歴史を詳しく教えていただきました。BSE問題や飼料の高騰など、その時々々の社会情勢からどうやったら日本の畜産を守ることができるか、食の安全安心を守るためにどうしたらいいのかを考え活動し、歩んできたことがよくわかりました。

飼料自給率向上のための飼料米の導入や、家畜のふん尿を田畑に還す耕畜連携を進め、アニマルウェルフェアを目指す飼育を障がいのある方が活躍しながら続ける「あいちゃん牧場」についても、2回目の講座で大内さんから学びました。生産者さん達の努力によって安全で安心なお肉を食べることができると改めて感謝の気持ちになりました。

理事 三浦一枝



あいあいファームの豚舎



日向養豚の豚舎



学習会の様子
大内さん(左) 吉野さん(右)

食育コンダクターの吉野さんによる講義であいコープの畜産の取組の歴史を簡潔に振り返る事が出来ました。

効率を求めて大規模な工場式畜産をすすめる世界中のアグリビジネスや輸入飼料に依存する日本の畜産がもたらす歪みに対して、あいコープが自給できる飼料、アニマルウェルフェア、放牧、農畜連携などの旗を立てて挑戦してきた意味を分かり易くまとめていただいたと思います。

私自身はいいコープ歴も長いので、挑戦には失敗もつきもの、実際にはいきつもとどりの歴史を職員として見て来ましたが、やり直すことはあっても決してぶれることがなく一貫して理想を追求してきたのだとあらためて確認できたと思います。

組織運営室長 豊嶋馨

人

つながり

人と人がささえあい、安心な地域社会をつくる

- 1 ジョイケアの認知度を上げ、子育て世代や高齢者がより利用しやすい仕組みをつくります。
- 2 社会福祉法人みんなの輪との協業に加え、利用者の方々との交流の機会を積極的に作り、障がい者支援の輪を広げます。
- 3 平和と人権を守る活動を行います。
- 4 貧困問題・少子高齢化など社会問題に対して、私たちができることをひとつひとつ検討し、実行します。

「私たちは協同の力で、人・食・環境を大切にする持続可能な社会をつくれます」

あいコープの基本理念のもと、5年後どんな姿でいたいのかを考えよう進むかの道標となる「2025年ビジョン」ができました



子育てする人も、歳を重ねた人も助け合える仕組みを確立し、みんなで幸せに暮らしたい！
そのための手助けをする「ケアメイト」を増やしたい！



わ・は・わ田尻(田尻町)

社会福祉法人みんなの輪を通じて、障がいのある方の活躍の場を作りたい！利用者の方と交流し、障がい者支援を続けたい！

食

はぐくみ

より自然で安全な食を守り育てる

- 1 組合員と生産者の協同の力で有機農法の拡大に取り組み、「持続可能な農・畜・水産業」を支えます。
- 2 「あいシテル」商品の利用結集と品質向上を通じて、食に関わる様々な問題の解決に努めます。
- 3 あいコープ型畜産の理解を深め、産直肉の利用を拡大することで、食肉加工場の安定経営を実現します。
- 4 仙台東のう倶楽部との連携を強化し、えんのう(援農)の仲間づくりを活性化し、産地を支えます。
- 5 組合員の声を集めるしくみを作り、組合員のくらしを育むまなま通信を目指します。



こめ豚セット

PB「あいシテル」商品を組合員みんなで利用し、あいコープの知名度を上げたい！添加物や遺伝子組み換えなどによる食の不安をなくしていきたい！

あいコープミートセンターを通して産直肉の価値を学び、利用結集することで持続可能な「あいコープ型畜産」を実現したい！



産地交流

農産産地と農業体験など交流を続け、あいコープらしい農業を拡げたい！

人がつながり 食をはぐくみ 恵みゆたかに 次へつたえる

～5年後には こうありたい あいコープみやぎ2025年ビジョン～

再生可能エネルギーが普及すれば、原発は必要なくなる！
地域の発電所を応援すると同時に、その電気を供給する「パルシステムでんき」を利用する組合員を増やしたい！



ひつぽ電力(丸森町)

水は命の源だから水環境を守りたい。
あいコープの原点の一つ「石けん」利用を進め、有害化学物質を減らしたい！
子どもたちに、豊かな環境を残したい！



海のプラ汚染調査

プラスチック削減を目指し、卵のパックを100%リサイクルできるモールド(紙製)にしたあいコープ。こんなふうに他にも環境に負荷をかけない商品を作りたい！それを選んで利用したい！



環境

ゆたかに

自然と調和した循環型のくらしをめざす

- 1 「原発のない社会」を目指し、事業や産地での再生可能エネルギーのシフトを推進するとともにパルシステムでんきの利用者を増やします。
- 2 石けん運動を入口に合成洗剤・香害など有害化学物質削減に取り組み、環境を守る活動を進めます。
- 3 環境への負荷削減のため、商品供給を通じた脱プラスチックや環境に配慮した持続可能な暮らしの提案をします。
- 4 脱原発・水道民営化問題・石炭火力発電の環境問題等、暮らしに影響する諸問題を学習し、他団体との協同で行政へ積極的に働きかけます。

多くの組合員が参加できる組合員活動をしたい！
みんなで楽しみながらあいコープを盛り上げたい！



ながめやま牧場ツアー

職員の「コアサイクル活動」を継続し、生産者と組合員をつなぐ職員を育てたい！



コアサイクル

ホームページやインターネット注文を、より分かりやすく、使いやすくしたい！



協同の力

つたえる

いきいきと学びあい、あいコープの輪を未来に伝える

- 1 より多くの組合員が関われる多様な組合員活動を行い、あいコープの仲間を増やします。
- 2 組合員や地域社会との双方向による情報交流を深め、様々な考えを活かした生協作りを行います。
- 3 多様化する暮らしに対応したデジタル技術を推進し、組合員満足度を高めます。
- 4 生産者・組合員・職員が本来の生協の姿とあいコープらしさを発展させ、次世代へつなげます。
- 5 他団体と協同し、「人・食・環境」に関わる行政への働きかけを積極的に行い、課題の解決につなげます。

7/2 飯舘電力バーチャルツアー

飯舘電力の千葉さんと米澤さんにガイドして頂きながらの飯舘村オンラインバスツアー、窓から見える飯舘村は緑豊かでとても美しく実際に現地を訪れている様な気分でした。除染土の入った沢山のプレコンパックの映像、村民の方の「放射能が高いという事も知らされなかった」というお話を聞きながら、あの日 安心・安全が嘘だったと知った時の感情を思い出しました。
女川原発を抱える宮城県に住む私、未来へ残す負の遺産に無関心では居なかった！そう言える私でありたい。「原発反対！再エネに切り替える【スイッチング】で応援！」と、ツアーを通し改めて思いました。

脱原発エネルギーシフト委員 萩原 晃世



パソコンが まるでバスの車窓

7/3 田んぼに行こう！生き物調べ

大郷での生きもの調べ、正味一時間の生き物探し。時間が足りない！と感じるくらい、子どもたちも私も熱中しました。
大郷の生産者のみなさんの力強さをすごく感じました。生産者のみなさんの気持ちやお米への愛、大切にしている気持ちが聴けて嬉しかったです！そしてとにかく、生き物がたくさんいたことにびっくり。
農産担当の職員さんも家族で参加されていて、職員さんも参加できてみんなが繋がるあいコープはすごく素敵だなあと改めて感じました。
ザリガニの新しい家族を連れて帰り、みんなでお世話をしています。
しおさい地区委員 菊地 愛子

トンボやカエル、ザリガニなど
たくさんの生き物を見つけたおだいの
たねまき

～ひんやりデザートをつくったよ～

7月12日、青葉B地区でオンライン企画「パスちゃん牛乳・ヨーグルトを使って夏のひんやりデザートを作ろう♪」を開催しました。zoomでのお料理企画に初挑戦。夏休みに子どもと一緒に作れる簡単で美味しいデザートということで、「ヨーグルトフロマージュ」をご紹介します。

オンラインなので、それぞれ自宅キッチンで作業。前日から水切りをしておいたパスちゃんヨーグルトと、生クリーム、砂糖を混ぜて、冷蔵庫で少し寝かせます。冷やす間に、ながめやま牧場の動画や地区委員の解説で、放牧パスちゃん牛乳とヨーグルトのことを学びました。広い牧場で伸びのび暮らす乳牛が、ストレスなく美味しい牧草を食べて分けてくれるお乳だから、こんなに美味しいんですね。

できあがったヨーグルトフロマージュに「わ・は・わのいちごジャム」を添えて、みんなでいただきます♪ヨーグルトから出たホエーの使い方など、牛乳談義に花が咲きました。

(青葉B地区委員 石井朱里)



完成！みんなのデザート



産直いちごで作られた「わ・は・わのいちごジャム」をはじめ、ブルーベリージャムを添えたりチョコをトッピングしたり、バリエーション豊富！オンラインだから自分のキッチンにあるもので工夫しました。



5分でわかる
ながめやま牧場

パスちゃんたちはどこで暮らしてる？
牧場の一日を見てみよう！
<https://youtu.be/wwMiwKIAy1I>

ええのう えんのう



一日畑にいと
農作物の気持ちがわかるように

最高！気持ちいい！と叫んでいる里芋達。仙台市太白区秋保町にある秋保ゆうきの会農場で、生産者の渡辺さんのもと、里芋まわりの草取りをしてきました。

「あれ？里芋どこ？」という状態。草の中に埋もれてしまいましたが、えんのうのみなさんと草をとること午前・午後・。すると、すっかり隠れていた里芋がみな笑顔で、キラキラしていました。私達も美味しい空気を吸って体を動かし里芋と同じ気持ち。その上畑の脇に、桑の実が食べ放題、美味しかった。

今年の里芋は一段と美味しくいただけそうで今から楽しみです。心も体もリフレッシュでき、気持ちのいい一日でした。ありがとうございました。

仙台えんのう倶楽部の情報を毎月お届けするのコーナー
第5回は田村由美さんの作業報告です！

組織概要

(2021年6月分)

【組合員数】	14,589名
【供給高】	255,448千円
【一人実利用高】	5,462円/週
【出資金】	1,240,397千円

理事会議事録抄

2021年7月6日(火)

▼7月以降の組合員活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について決定した▼2021年度の理事報酬を決定した▼2021年度委員会活動費・委員会活動予算について決定した▼学習会「生活アートクラブおはなし会」企画案を承認した▼木町通市民センターでの上靴洗い企画について承認した▼福岡伸一氏講演会について承認した▼機関紙等に掲載する肖像画像の取り扱いルールについて協議した▼OKシードプロジェクト参加について協議した▼地区・専門委員会委員長決定報告について承認した。

ちょっと
ひとこと

④ カーボニュートラルで、再生可能エネルギーも着目されますが、「原子力はいらぬ」の声を上げ続け、スイッチングすることは誇りだと思おう人を増やしたいと思いました。(飯館電カバーチャルツアー参加者)

始めよう！緩けよう！ 石けん生活

7/8 石けん環境委員会
学習会報告

ごみを減らすことは プラスチック汚染を減らすこと

7月8日、大阪商業大学公
共学部准教授であり、特定非
営利法人プロジェクト保津川
の代表理事でもある原田禎夫
氏を講師にお迎えし、環境学
習会「未来のために知ってお
きたい、海とプラスチックの
話」をオンラインで開催し、59
名が参加しました。

プラスチック汚染は、海の
生き物への深刻な影響を与
え、2050年には魚よりも
プラスチックのほうが多くな
るとも言われています。その
プラスチックはどこから出て
いるのか、私たちはどれくら
いプラスチックを摂取してい

まっているのか、また河川の
プラスチックごみの現状、田
んぼに使われる被膜肥料カブ
セル（水田に撒いた後、時間差
で効力を発揮させるため、化成
肥料をポリエチレンなどのカプ
セルで粒状にコーティングした
もの）による汚染についてなど
幅広くお聞きしました。

その中でも参加者からの質
問が多かったものが「生分解
性プラスチック」についてで
した。生分解性といってもど
のような状況で分解されるの
かわからないということ、ま
た今あるリサイクルの比率を
下げることにしかならず問題
だということをお聞きし、改
めて使い捨てプラスチックの
量を減らしていくことの大切
さを学びました。

京都府亀岡市での取り組み
を例に、プラスチックごみだ
けでなく、ごみ全体としての
削減を目指すことが必要だと
いうお話をお聞きし、私たち
に出来ることはまだまだ沢山
あるということを感じた学習
会でした。



原田禎夫先生



組合員と職員
59名がオンラインで
先生を囲んだ

理事 佐藤 あきな

私のオススメ商品



私のお勧め商品は、タンポポ村の
「もぐもぐミニウイナー」。一般に
ハム・ソーセージには「塩せき」（亜
硝酸塩＝発色剤を加えて肉を赤く発
色させ保存性を高める）工程が不可
欠とされていますが、このウイナー
は発色剤を一切使わない「無塩せ
き」の商品です。我が家の朝食では



ウイナーが欠かせない一品で、子供たちに「少しでも体に良
いものを」と、このウイナーを食べるようになりました。サ
イズが小さく、皮なしタイプなので小さなお子様からご年配の
方までお召し上がりいただけます。また、時間がたっても美味
しいのでお弁当にもぴったりです。 事業部 大内直人

編集後記

欧州連合（EU）の行政府である
欧州委員会は、2035年に二酸
化炭素の排出基準を一気にゼロに
してガソリン車の販売が事実上で
きなくなる環境政策案を7月14
日に発表しました。まだEUの最終
決定ではないし他の国々がどうす
るか分かりませんが、「14年後」と
いう時間内に、反動も含めて大き
な変化がおこることは確かに思わ
れます。気候正義を求める声によ
って、石油文明に幕が降ろされよ
うとしています。時代変化の加速
を肌身に感じさせるニュースでし
た。

●機関紙あいあいあいのご意見・ご感想

組合員番号、氏名、電話番号をお書きの上、
配送もしくはFAX (022-284-6973) にて、
あいコープみやぎ理事会へ広報宛にお送り下さい。

組合員の皆さんの『つばやき』も大募集中！

ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、
組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組み
です。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシュー
への支援など、地域福祉にも役立てられています。
個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電
話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く
利用されています。

ジョイケア利用状況 (2021年6月分)

ささえあい(保障)	1件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	6件	利用延べ人数	0名
集団託児	0件	◆ケア時間	
慶弔・出産	9件		10時間
電話相談窓口	19件	*Covid-19の為、活動を	
計	35件	制限していました。	

組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



0120-50-7277 平日 9:00～15:00

年金相談..9/14(火) 社会保険労務士 清野道子氏

13:30～15:30

法律相談..9/14(火)、9/22(水) 弁護士 倉林千枝子氏

13:30～15:30

傾聴..9/14(火) NPO法人仙台傾聴の会 森山英子氏

10:00～12:00

子ども相談..9/21(火) 宮城教育大学教授 菅井裕行氏

10:00～12:00

健康相談..9/28(火) 薬剤師 海沼俊規氏

介護相談 (ケアプラザセンター木もれび 山崎彰子氏) は相談希望日をうかがいます。

▼各相談窓口前週の金曜日までに予約
して下さい。随時受け付け可能です。
▼予約して頂いた方には、相談日に相談
員からお電話を差し上げます。

● 窪田さんがとても素敵な方で、愛情と情熱を持って農業に取り組んでいることが伝わってきました。種のお話も興味深く勉強になり
ました。次回、草取りがんばりたいと思います。(たねまきプロジェクト参加者)

雨に濡れながら青空を待っている はさまの米と夏野菜たち



きゅうりの生育を見る芳賀さん

宮城県北部。伊豆沼や長沼、迫川など自然豊かな登米市で無農薬・減農薬により「生き育む」農業を続ける「はさま自然村」。取材に訪れた日は梅雨真っ只中！路地の野菜たちはじっとお日さまを待っていました。

就農27年目の芳賀さんは前職が大手スーパー勤務。当時青果コーナーで販売していたきゅうりと、はさまのきゅうりの味の違いに驚いたと言います。きゅうりは栽培期間も長く、農薬を減らすことが本当に難しいそうですが、忘れ

れないそのおいしさを追及して栽培に励んでいます。芳賀さんの畑では、ナス、ピーマン、オクラなど多品目を少しずつ作っており、作付けのタイミングを工夫しながら安定した供給を目指します。

トマトも最盛期。就農14年目の千葉さんは「農業が楽しくなるまで12年かかった」と真顔で…えっ？楽しかったのがつい2年前？(笑)農作業は大変過ぎて、時に音を上げそうになりながら続けてきたそうですが、今ではトマトに愛を注ぎ、食べてくれる人との交流を楽しむ立派な産直生産者。そんな農業の喜びを新聞に投稿し、掲載されるほど！

スポーツインストラクターから農家になったという袋さんも、お米やトマトを始め、最近注目を浴びている空芯菜などを栽培しています。就農した時から無農薬がベースだったので、それが当然と思ってやってきたとおっしゃいます。収量より「おいしさ」にこだわり、思い通りにできたときの喜びは格別。



はさま自然村の産直米
このパッケージの裏面には
メッセージと情報がいっぱい！

生産者交流企画の「バケツ稲」の講師でもある菅原さんは、生き物との共生をいつも考えています。産直米「あなたと田んぼ物語」のキャストである虫やカエルなどを守りながら、「食味値」(機械で計測できる美味しさ)を超越した「とにかく美味しいササニシキ」を作るのが夢だそう。

取材の終わり、編集部からの「皆さん生まれ変わったら何になりたいですか？」という問いに「田んぼのカシになりたい」「さくらんぼの木になってみんなに美味しい実をあげたい」と答える、はさま自然村の皆さん。とにかくこの土地が好きで、守りたい農業があり、美味しいものを届けたいという愛がある…そんな深層心理が見えるような回答だな♪と、幸せな気持ちになる取材でした。



土づくりにこだわった野菜は
味が濃くておいしい



(株)はさま自然村 (左から)

菅原 達徳さん 袋 和人さん
芳賀 定一さん 千葉 俊宏さん

はさま自然村のある登米市は、仙台から1時間ちょっと。県内でも遠い方の産地になります。なかなか頻繁には交流できないのですが、コロナ禍でさらに疎遠になりそうな中、唯一「バケツ稲」で組合員さんと交流させてもらっています。

はさまの生産者は、収量よりも味・食感・香りなど「美味しさ」を優先します。作付けを計画する時は、野菜や米の「品種選び」から始まりますが、私たちは耐病性とか収量に特化したような品種ではなく「おいしい」品種を選びます。せっかくだから美味しい品種を食べて欲しいからです。旬の夏野菜、どうぞご期待ください。

はさまの田畑には生き物がたくさんいます。小さな生き物は、感覚を研ぎ澄まして常に全滅を恐れ、環境に順応して、次の世代へと繋いでいきます。その循環を身近で感じています。いつも驚かされます。

楽しさ・美味しさ・爽快さなどを登米市から農産物やまんま通信やネットを通して伝えていけたらなと思っています。これからもよろしくお願いします！

はさま自然村 菅原 達徳

Calendar *今後のイベント*

Wa!わ祭り 2021

2021年10月30日(土)～11月28日(日)

今年はネットで
「お祭り月間」だ！

ニュースの発行を
お待ちしております

9/2

石けん環境委員会主催

環境学習会

有害化学物質による環境汚染や健康被害(仮)

講師/ NPO法人ダイオキシ・
環境ホルモン対策国民会議 中下裕子氏
場所/ オンライン(zoom)開催
自宅からパソコン、スマホで参加
時間/ 10:00～12:00
参加費/ 無料

9/30

石けん環境委員会主催

【雑貨】から見えてくる持続可能な未来
富士村社長のおはなし会 Part2

講師/ 生活アートクラブ社長 富士村夏樹氏
場所/ オンライン(zoom)開催
自宅からパソコン、スマホで参加
時間/ 10:00～12:00
参加費/ 無料

地区委員さん募集中！
一定例会見学も受付中ー

地区委員会は

楽しい！
おいしい！
学べる！！

あいこがの仲間だから
本音トークができます。

お問い合わせ先
☎ 0120-255-044
Fax 0120-849-324
Email soshiki@mamma.coop
(担当：組織運営室長 豊嶋)

